

びわこ文化公園植物だより〔β版〕

スズメウリ ウリ科

- ・学名 *Zehneria japonica*
- ・西エリアの湿った野原に自生



暖かい秋でしたが、ここ数日は霜もおりるようになり、ようやく冬が来たという印象ですね。紅葉もピークを過ぎ、草も木も冬枯れの寂しい姿に変わりつつあります。そんな中、多目的広場の奥の水路わきで、スズメウリの実がたくさんぶらさが

っているのを見つけました。長さは 1.5cm ほどでウリとよぶには極小サイズですが、まるくて白い果実には独特の存在感があります。

スズメウリは同じウリ科の野生植物であるカラスウリに比べてずっと小さいので、「スズメ」がつけられたと考えられています。カラスノエンドウ・スズメノエンドウのペアと同様ですね。いっぽう、白っぽい実をスズメの卵に見立ててスズメウリ、とする説もあり、こちらの説も捨てがたいように思います。

スズメウリの実を指で押すと簡単につぶれて、ぬるぬるする果汁とともに黒い種子が 10 粒ほど出てきます。果汁をなめてみるとかすかな甘みはあるものの、ウリ類独特の青臭さのほうが強くて、積極的に食べたくなるようなものではありません。

おいしくないのは鳥や獣たちにとっても同じなのでしょう。目立つところになっていても見向きもされず、いつまでも所在なげです。このスズメウ

りは(カラスウリも)、どんな鳥あるいは動物が食べて種子を運ぶのかわかっていない、謎の果実なのです。バードウォッチャーの皆さん、もし鳥や動物がスズメウリの実を食べているのを目撃されたら、ぜひご一報ください。



ところで、植物の「学名」は学術上の正式な名前ですから、いったん決まれば変わらないものと考えられがちですが、実際には、同じ種でも図鑑によって違う学名が書かれていることは珍しくありません。分類学の進歩につれて、正しいと考えられる種や属の分け方が変わっていくためです。

スズメウリも、学名が何度も変わってきた種です。最初の学名は江戸時代に長崎を訪れたスウェーデンの植物学者チュンベリー(トゥーンベリともいいます。現代スウェーデンの環境活動家グレタさんと同姓ですね)によってつけられたもので、*Bryonia japonica* でした。有名な『牧野日本植物図鑑』では *Melothria japonica* とされていた。その後、*Neoachmandra japonica* とされた時期を経て、現在では *Zehneria japonica* が正しい学名とされています(ylistによる)。古い図鑑を見るときには注意が必要です。

(龍谷大学農学部・川北暁仁／濱口優輔／
岸 涼子／日下 隼／三浦励一)

- ❁ スズメウリは [ここ](#) で見ることができますが、周辺がぬかるんでいますのでご注意ください。(クリックで Google マップにリンク。10メートル程度の誤差が出ることがあります)